Ⅳ期原発性肺癌に合併した乳び胸に対してリンパ管造影が有効であった一例

中島早希[a]

芦田美緒[a]

渡邊暁[a]

宇都宮琢秀[a]

堺幸正[b]

工藤慶太[a]

所属機関

[a]独立行政法人　国立病院機構　大阪南医療センター　腫瘍内科

[b]独立行政法人　国立病院機構　大阪南医療センター　放射線科

要旨

症例は 71 歳女性．左胸水精査で受診し原発性肺腺癌 StageIVA と診断した．ゲフィチニブ（Gefitinib）での治療中，右肺門部リンパ節の腫大及び肺内転移，右胸水貯留を認めた．胸水の性状は乳び様であった．2 次治療としてオシメルチニブ（Osimertinib）を開始し腫瘍は縮小したが胸水は増加が続いた．食事療法では改善せずリンパ管造影を施行した所，漏出部位は特定困難であったが乳び胸水の減少を認めた．非外傷性の乳び胸に対しリンパ管造影自体が治療の一助となり得る．

キーワード：EGFR 遺伝子変異陽性，原発性肺癌，乳び胸，リンパ管造影
EGFR mutation-positive , Primary lung cancer , Chylothorax , Lymphangiography

短縮タイトル：肺癌に合併した乳び胸にリンパ管造影が奏効した一例